



社会福祉法人ウイズ

千葉県茂原市木崎1300番地1

TEL：0475-47-2600

FAX：0475-47-2700

令和7年1月発行

ごあいさつ 理事長 三好 恵里子

あけましておめでとうございます。2025年は私にとっては高齢者の仲間入りをする年であり、1つの区切りの年だと感じています。法人では数年前から次世代への移行を進めていますが、だんだんと各職員が力をつけてきている気がします。長生圏域では「長生たまご」、山武圏域では「次世代リーダー」の会なるものができ、どちらも職員たちが事務局として参加しています。そんな様子をみながら「温泉黒たまご（熟年チーム）の会は無いのかい！」とっております。現場好きの私ではありますが、今年はそろそろ理事長としての仕事を中心にしなければと思っています。ARUKUの活動内容の見直し、長生圏域の基幹相談支援センター、管理職の育成、本部事務所などなどまだまだ考えなければならないこと、基礎を作らなければならないことが満載の状況です。

昨年秋に長年関わりのあったA利用者さんが亡くなりました。相談支援専門員の私は危篤状況を知った時に、Aさんの大の友人であった他法人のグループホームに入居しているBさんに伝えたいけれど不調になる可能性もあるため逡巡し、グループホームの管理者に相談したところ、「伝えてください。大丈夫でしょうが、Bさんが不調になっても責任をもちますので・・・」とってもらい伝えることができました。そして翌日管理者がBさんと共に病院に行ってくれて会うことができました。そしてその日の夕方Aさんが旅立ちました。偶然が重なりAさんがBさんと呼んでいたようなそんな感じでした。Bさんも会えたことをとても喜んでくれました。火葬にも参加してくれました。私達は判断を悩むことが多くあります。このような時に本当に悩みます。その時に同じ思いを共有できる仲間達、一緒に行動できる人達がいることをとても嬉しく感じます。今回は入院にあたってクリニックの医師が夜遅くに紹介状を書いてくれました。Aさんの人柄もあるでしょうが、周りに支えられていることを強く感じた出来事でした。

個人的に成年後見人も1名のみ行っているのですが、本人の代わりに判断しなければならない重さ、人の人生を変えてしまう可能性のあるこの仕事に押しつぶされそうな感じになる時があります。しかし、さまざまなことを利用者や仲間達と共に悩み、経験し何かをやり遂げた時に関係は積みあがっていくと思います。また、そこにやりがいも感じるができるのだと思います。自法人にも精神保健福祉士の実習生が数名毎年来てくれます。忙しかったり悩むことも多い仕事ではありますがいろいろな経験ができ、とても素敵な仕事であることを伝えられていると嬉しいです。

そして利用者も職員たちも、苦しいことや悲しいこともありながらも良い人生だったと思える道を歩んでもらえたらと思います。それが社会福祉法人ウイズの理念でもあり、今年も貫きたいことです。今年もよろしく願いいたします。



ARUKU Y.Kさん作品 「巳」

## ～TOPIX～

### 農福連携

農福連携事業はJ A長生の取り組みとして福祉事業所と農家約10件の生産者が協力し、農作業に取り組むことで4年目を迎えています。農家は労働力確保ができ、耕作面積拡大に繋がり生産量向上等、徐々に効果も高まりを見せています。



当法人では、就労系事業所ARUKUとEMUからタマネギやネギ収穫など、農作業が好きな利用者さんが10名程度参加し、社会参加の機会を得ることで自信にも繋がってきています。

利用者さんは開放感がある畑で作業することで、運動や気分転換になったり、出荷できない野菜を持ち帰ったりして仲間や家族と食べることで喜びを共有しています。室内委託作業に比べ賃金が高く、この経験を活かして農業を就職に選ばれる方もおり嬉しい限りです。

農家も利用者もWin-Winで、今後も社会福祉法人として地域の活性化に携わり、地域と共に歩み、みんなが幸せになれる農業、福祉を目指していければと思います。(高田)

### MURAプロジェクト

村山鋼材株式会社より工場見学用の品物に続き、卓上カレンダーの依頼をいただきました。今回のターゲットは村山鋼材株式会社の営業先や村山鋼材社員とのことで、イラストを多用するのではなく、実用性を追求した商品を目指しました。互いに意見を出し合い、①メモ欄を大きく、自由に使えるようにする ②開けてみたくなるような仕掛けを用意する という発想から製作がスタート。くじ引きのように「当たり」があると面白いと考え、「当たり」のおまけとして、あるくBOXの商品のひとつであるポストカードを同梱しました。



これらの仕掛けやデザインを村山鋼材株式会社が、カレンダーのデザインをEMUがそれぞれ担当し、協同制作品として完成まで至ることが出来ました。商品を生み出す企画力や着眼点など、学ぶことが多く、他業種と連携することの面白さを実感しています。



福祉は福祉分野だけで成り立つものではなく、特に障害福祉においては地域のみなさまの理解や協力を得ることがとても、とても重要だと考えています。私たちも福祉以外の業種ともっと連携し、自分たちが成長しつつ、協力の輪を広げていきたいと思っています。地域のお祭りや販売イベントの機会に、メモ帳や紙ファイルに加えて卓上カレンダーも販売していく予定です。どこかで見かけた際にはぜひ手に取ってみてください。(森岡俊)

## GHバスツアー

12月6日、日帰りバスツアーへ参加しました。一般のお客様も参加されるツアーです。普段は時間配分も利用者の状況に合わせ臨機応変に対応しています。しかし今回の旅行は、決められた時間で行動しなければなりません。



旅の始まりは、豊洲千客万来から。多くの人で迷子にならないか心配しましたが、職員の心配をよそに買い物や食べ歩きを楽しみました。次に向かったのはホテルでのランチビュッフェ。たくさん食べて満足しました。その後水上バスで東京湾クルージング、レインボーブリッジをくぐりお台場海浜公園へ。海風を感じ、景色を楽しみました。最後は国会議事堂の見学です。小学校の社会科見学以来数十年ぶり。普段TVで見る風景が目の前にあり、うっすら残る記憶を呼び起こし、思い出話に花が咲きました。天候にも恵まれ、時期遅れの紅葉も楽しむことができました。

こういった経験ができる機会を作り、いずれは自分たちで楽しめるようになるといいですね。(本良)

## ARUKU 東京ドイツ村

余暇活動として10月12日に日帰りの外出を計画し、その中で希望が多かった東京ドイツ村に行く事になりました。最大の心配は天気でしたが晴天に恵まれ、まずは一安心です。時間にして1時間程で現地に着きました。ドイツ村では2時間超かけて色々な所を見て回りましたが時間があっという間に過ぎてしまった印象です。観覧車等アトラクションを利用する方、広場でボール遊びに興じる方、お土産屋で買い物を楽しむ方、それぞれが楽しい時間を過ごせたようです。その後はドイツ村から車で5分のTassの森に場所を移して昼食をとりました。多くのお客様が来ていましたが、お店のご配慮で席を予約でき、暖かい日差しの中で竹岡風ラーメンや海鮮メニューなど各々好きなものに舌鼓をうっていました。店内にはピアノがあり、利用者の一人が音楽を奏でていました。天候に左右される場所で、時間も足りない印象でしたが其々楽しく過ごせたという感想だったので良かったな、と思いました。(佐瀬)



## じょい外食

11月11日、行事として外食に出かけました。コロナの影響などもあり、じょいの外食行事は、実に5年ぶりとなりました。事前に全体ミーティングで行きたいお店を話し合い、値段のお手頃なサイゼリヤに決定！お店からメニューを送っていただき、予め注文するメニューを考えました。メイン料理を何にするか、サラダやスープは、ドリンクバーを付けるか付けないか、そしてデザートは等々、それぞれの食事に対する好みははっきり分かれて面白かったです。当日は、利用者19人、職員6人が参加しました。普段外食する機会がない方も多く、お店に入った時点でテンションアップ！

出来立ての料理が届くたびに盛り上がっていたのが印象的でした。お店の方もとても理解があり、車椅子を使用する利用者さんが出入りしやすいように席を配置してくれたり、料理を分けるために置くテーブルを確保してくれたりと非常に助かりました。反省点もありますが、好評でしたのでまた企画できたらと思っています。(小林)



# しおかぜ祭

10月19日、さわやかな秋晴れのもと、千葉県立長生特別支援学校で開催された文化祭「しおかぜ祭」に、今年もEMUとARUKUで外部販売に参加させていただきました。EMUでは特製の唐揚げ、おにぎり、おにぎらず、丁寧に焼き上げたパウンドケーキ、メモ帳等を販売。また、ARUKUではいほり豊かな太巻き寿司、おいなりさん、毎年大好評のシフォンケーキを販売し、たくさんの方々にお立ち寄りいただき、ほとんどの商品が完売するほどの賑わいを見せました。卒業生の利用者さんも販売スタッフとして参加し、懐かしい顔との再会や、地域の方々と触れ合う貴重な機会となり、いきいきと働く姿が印象的でした。スローガンである「キラキラ笑顔 元気に協力」を体現でき利用者さん、職員共々とても充実したひとときでした。また来年も楽しみにしております。準備から片付けまで、先生方や生徒さんたちの温かいサポートに感謝申し上げます。この経験を励みに、これからも地域の一員として、貢献してまいります。(中村)



## 実習生受け入れ

実習に来てくれて  
ありがとうございます  
ございました！  
今後の経験に少し  
でも役立てられ  
れば幸いです。



ウィズでは、社会福祉士や精神保健福祉士、保育士などを目指す学生の実習を積極的に受け入れています。実習期間は様々で、各事業所を数日ずつ体験していただきます。それぞれの事業所で得た実習生の気づきから私たち支援員が学ぶことも沢山あります。また、行事の際にはボランティアに来て下さる方もおり、ありがたいつながりです！

ウィズで15日間お世話になりました。実習では利用者さんと支援員の距離感や、信頼関係が築けていてとても良いなと感じました。また、利用者さんの強みを生かした支援をされていることが印象に残っています。一人一人のニーズに合わせた関わりと信頼関係を築くことで安心して通所したり力を発揮できるのではないかと感じました。実習期間、ありがとうございました。(実習生 富田)

今回の実習を通して感じたことは、「物事に複数の意味を持たせることが大切」ということでした。EMUでの体験で関わった「農福連携」を例に挙げると、単に人手の足りない「農家」と働く場を探している事業所が相互協力をするだけでなく、利用者さんには地域の方とのつながりを実感してもらう場にもなっていることがわかりました。15日間、ありがとうございました。(実習生 國井)

## 長生きたまごプロジェクト 11月22日

参加者感想

長生きたまごプロジェクトは、介護や障害等の分野を問わず、長生圏域で働く若手～中堅職員向け活動する次世代を担う職員を対象に、働きやすい地域づくりを目的としています。

今回、企画段階から事務局として携わっていた研修、「集まれ！つながれ！福祉のWA～長生圏域の8050問題を考える」が、茂原市役所にて行われました。高齢分野からは地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等、障害分野からは就労系事業所やグループホーム、医療機関や行政機関からも参加があり、50人以上の方に参加していただくことができました。

福祉は分野ごとの隔たりがあると感じることも多く、今回の分野横断的な関わりをきっかけに、今後の支援に活かしてもらえたらと思っています。次年度以降、分野を広げての開催も考えておりますので、ぜひご参加ください。(羽石)

講義では介護分野・障害分野が互いの制度説明を行い、グループワークで意見交換を行いました。普段関わることの少ない介護分野の方が、どのようなことを考え仕事に向き合っているのか、支援を行う上での課題を知ることができました。

研修を通じ、長生圏域が一つのチームとなることで、多方面から包括的な支援に繋がるのだと感じました。業務のなかの会話だけではなく、日常会話も含めて和が広がっていくんだなぁと改めて思いました。(三好優斗)

## 千葉県精神障害者自立支援事業協会研修 11月30日

午前は、「精神障害者支援の基本」について特定非営利活動法人夕なぎの鎌田氏より、ご自身の体験を交えながら大変分かりやすく講義していただきました。私たちは普段、支援する側として働いているが、私たちの心の在り方はどうしたらよいのか、自分のニーズとは？などグループワークを通して他事業所の方たちと議論を交わしました。講義の最後には、「支えの信条」という動画を見ました。障害者支援に携わる方にはぜひ見て欲しい動画です。

午後は、社会福祉法人ワナーホームのGHについて、ワークショップ茂原、マリンハウスのそれぞれ各事業所でのお話を伺いました。他事業所のお話はとても興味深く、自分の事業所で活かせることや参考になることはないかと聞かせていただきました。最後は、午前と違ったグループに分かれて各部会での活動報告や課題について話し合いました。沢山の方の貴重な意見を聞け、大変勉強になりました。(八田)

## 次世代リーダー育成研修 12月3日

次世代リーダー育成実行委員は3年前から発足され、「法人・地域の次世代リーダーを育てる」という目標に基づき、ウィズを含め4つの法人が合同で中堅職員向けの研修会を企画、実行するという取り組みです。

研修の前半は「スーパービジョンを用いた人材育成」をテーマに、森山拓也先生（城西国際大学准教授）の講義を受けました。人が人を支援するこの仕事には、支援者自身や支援者を取り巻く状況が仕事に大きな影響を及ぼすと言われており、そこで先輩職員による相談窓口が就業継続のカギになるというお話でした「とことん傾聴し、助言はしないつもりがちょうど良い。」という言葉が印象的で、この仕事をしているからこそ身についた「傾聴」という技術を職場内でも活かし、話をしたら受け止めてくれる存在が職場にいるという安心感のもと一緒に働き続ける仲間を増やしていけたら良いなと思いました。

後半のグループワークでは、事前に現職5年未満の職員向けにとったアンケートの結果を踏まえ意見交換をしました。この仕事は人によって悩み壁にぶつかるが、人によって癒されるものなのだ実感しました。利用者へエネルギーを伝えるよう、職場でしっかりエネルギー補給ができる環境を、上司や同僚と協力し作っていきたいと思います。(吉田)

# クリスマス会

12月21日にウィズのクリスマス会を「ほのおか館」で開催しました。利用者、職員を合わせて78人が参加しています。各事業所からは利用者の方による歌やダンス、ハンドベルの合奏など、素敵な発表ばかりでした。

日々の活動の合間を縫って練習に励んだ成果が出ていました！職員のオタ芸チームは予定外のアンコールもあり、激しいダンスで会場を沸かせてくれました。○×ゲームは法人に関するクイズで、職員並みに法人に詳しい利用者さんが何人もいて職員一同、驚きでした。大いに盛り上がり、沢山の笑顔と笑い声に包まれた二時間半でした。

反省点は次回以降に活かし、今後も皆さんと楽しい時間を共有できる行事内容を考えていきたいと思っています！お楽しみに！（吉田）



## ホッとステーション設置

10月からARUKUが、特定非営利活動法人リンクが行っている「みんなの心のよりどころホッとステーション事業」の一つとなりました。ホッとステーションでな～に？「こども110番の家・お店」みたいなイメージを思い浮かべてみてください。普段は特に活動していませんが、困った時に駆け込んで相談できる場所です。

ホッとステーションは、何かがあってもなくても、気軽にココロ休まる場所と思って休んでもらえる場所や機会の事です。7月から9月にかけてはクールステーションになります。ARUKUにお越しの際にはぜひ備え付きのベンチに座りおくつろぎくださいませ。（榎本）



## じょいボランティア

じょいでは昨年2月からレクリエーションの一環として、月1回ボランティアサークルに訪問をお願いしています。茂原市ボランティアセンターに依頼し、予定や条件の合う団体を紹介していただいています。今までに来ていただいた団体の活動は、マジック・民謡・詩吟・三味線・ハワイアン・笑いヨガ・ハーモニカなど多岐に渡ります。こんなに幅広い活動をしているサークルが地元にあるということを知れたのも、この取り組みを始めた成果の一つです。今後もレクリエーション活動の充実と、地域の方々との交流の機会を目的として継続していけたらと思います。（小林）



## BCP委員会

今年もインフルやコロナ等の感染症への備え、能登地震や東海地震の危険/豪雨水害などの災害が続く、改めて安全確保と早期業務再開について学びたく11月13日に「社会福祉施設における防災対策基礎講座」へ参加しました。講義で特に自分の印象に残ったことの一つはBCPに関しては事業所だけでどう動くだけでなく、外部支援者に向けた計画として計画書を見ただけでボランティア等の外部支援者が行動できるものを行政側が求めているという内容でした。

また、現在努力義務の「個別避難計画」が近年中に義務化になるのではないかと。講師も再三口にしていましたが、国や省庁と現場で計画する場と実際計画・運用する現場との乖離行っていく困難さを改めて知る研修となりました。（佐瀬）



## 研修委員会

研修委員会では、法人内研修として、9月以降、虐待防止研修、新入職員向け研修、合理的配慮についての研修、生活介護事業所・グループホームについての事業説明を行いました。

12月はクリスマス会があるため、法人内の研修は行いませんが、1月には八街少年院へ見学研修を行う予定です。

今年度は、法人内の職員が研修講師として行う研修が多くあり、業務の合間を縫って研修資料を作成したりと、これまでと違った苦労もありますが、研修講師をすることで職員自身のスキルアップにもなっていると感じます。

また、研修それぞれに味があり、とても充実したものになっています！（羽石）



## 感染症委員会

10月3日の新人研修で、3名の新人に向けて手洗いの研修・訓練を行いました。いつもの手洗いで、意外と汚れは落ちないということを実感してもらえたのではないのでしょうか。皆さん、とても熱心に受けてくれました。

11月は、事業所ごとに吐しゃ物処理についての研修・訓練を行いました。感染を広げないための処理の仕方を動画を見て学びました。

今後も、分かりやすく、内容の濃い研修・訓練になるように各委員は準備を進めている最中です。来年度以降も

引き続き新人への研修訓練を行っていきます。  
(田中)



## 広報委員会

去年はウイズのマスコットキャラクターが決まり、良い広報活動ができました。今後もみなさんの身近な存在になれるよう、様々な所で「ユウ」が見られると思いますのでよろしくをお願いします！

前回記事にも記述した、ボランティア受け入れマニュアルが完成しました。ボランティアの皆さんに気持ちよく活動をしていただけるよう、そして事業所ごとに対応が食い違うことのないよう、手順書を盛り込みました。また、今年度から広報誌が8ページとなり、行事や報告すべき点、委員会の活動内容を掲載しております。ご覧になっ

ている皆さまはいかがでしょうか？ぜひ意見をお待ちしております。今後もレイアウトなども考えながら見やすい広報誌を作成していきます。(白鳥)



## 虐待防止委員会

9月に全職員参加で虐待防止研修を行いました。今年度の研修は不適切な支援場面を演じた動画を事前に撮影し、動画を観ながら振り返りを行いました初めての試みでしたが「イメージしやすかった」等好評でした。

また、アンガーマネジメントを用いて、虐待の原因となる「怒りのコントロール方法」についても学びました。

職員アンケートでリクエストのあった「急変時の対応」について、9月24日にじょいに月1回来て頂いている看護師による自主研修を実施しました。  
(森岡飛鳥)



## 助成金活用し民堵へ車両導入

(公財)中央競馬馬主社会福祉財団、(一社)中山馬主協会の助成事業を受けた、ワゴンRの納車を頂きました。ありがとうございます。今後、茂原市内を中心に民堵の活動の中で大活躍の予定です。小回りも効くワゴンRで皆さんの元に何う事があると思います。中央競馬という事でお馬さんが描かれています！見かけた際は、お馬さんマークいくつあるか是非数えてみて下さいね。(羽根田)



## 利用者の声

私は、昨年6月から民堵を利用しています。正直に言うと利用開始当初は、「初動が遅くもどかしい。」と感じたことがありました。相談員には電話や訪問で困りごとを伝え、どうしたら良いか一緒に考えてもらっています。関わり方は私に合っていると思います。

今はヘルパー(掃除)を利用し自分の部屋の衛生面が良くなりました。短期入所と自立訓練も利用し、手が届かなかったところにサービスが入ること自分らしい生活に近づきました。

これからも困ったことは相談をしながらサービスを組み合わせる穏やかな生活を送りたいと思っています。(民堵 U.Aさん)

## 利用者の声

私は、ウィズのグループホームで11年お世話になっています。週に4日、デイサービスに通っていますが、休みの日には部屋でテレビを観たり、リビングで塗り絵や勉強をして過ごしています。今はヒュッゲに住んでいますが、いつも職員がそばにいるためとても安心感があります。定期受診や買い物に同行してもらえる他、掃除や洗濯も手伝ってもらえるため助かっています。食事が3食提供されるのも嬉しいです。

3年前にスマイルから移動したときは多少不安もありましたが、住んでいるうちに居心地が良くなりました。現在74歳ですが、80歳まで居ることが目標です。(ウィズ 武田晴樹さん)

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。あっという間に一年が終わってしまい、時の流れの早さを感じつつ、時間の大切さを実感しています。さて、寒い日が続きますが皆様はどのようにお過ごしでしょうか。年末年始は、毎日のように特番があり娯楽には事欠きません。いろいろ見ているうちに深夜に....なんてこともあるかもしれませんが、新年、気を引き締めていきたいです。今年も一年、ウィズをよろしく願いいたします。(浅野)



今年もよろしく  
おねがいします

